

新聞週間特集

自由社会に欠かせぬ存在

道具としてのメディア

共産主義崩壊とマスコミ

米ランド フランシス・フクヤマ氏に聞く



一九五二年生まれの日系三世。米ハーバード大学からソ連研究で博士号を得て...

ソ連・東欧の共産主義体制の崩壊にマスコミの果たした役割について米ランド研究所顧問のフランシス・フクヤマ氏にインタビューした。

機能は思想の伝達

「あなたが二年前に発表した論文『歴史の終わり』は共産主義の崩壊と自由民主主義の世界的な広がりを予言して、国際的に波紋を呼んだが、その究極のイデオロギーともいえるべき自由民主主義とは自由新聞などマスコミの存在が不可欠なのか。」

伝える内容が問題

「マスコミは時代が異なればファシズムさえ普及する」というわけか。一九三〇年代を思い起こしてほしい。ナチス・ドイツのゲッペルス情報相、リッペントロップ外相などマスメディアの効用に関してニュース映画の利用などで最も創造的だったプロバガンダ専門家...



東京外語大教授 中島嶺雄氏

台湾の経済的、社会的発展に伴い、その国際的役割は極めて大きくなっており、今日、台湾を抜きにしてアジア太平洋地域の将来は語れない。また、今春、台湾が(中国共産党を反乱団体とした)動員戡乱(からん)時期臨時條款の廃止、国家統一綱領の制定に踏み切ったことは...

独自の中国・台湾報道

中国の将来に重要な意義をもつ。経済改革とともに政治改革を進めることは、大きなリスクを伴った。両立は一般に難しいとされている。だが、台湾は李登輝總統のリーダーシップの下、経済的發展とともに...

西側報道で自らを知る ソ連



「うのみ」報道の時代

先に西側メディアが草率めくような役割を果たした自由民主主義の普及のため、さながらという側面も極めようかという疑問を提起した。ソ連側は、西側メディアがソ連の「西側化」プロセスを遅延させ、大側面があるからだと、ソ連がそれを同調する形をとり、共産主義の崩壊を同調した。冷戦中のソ連は...

西側の左寄り、リベラルとされるマスコミを利用して、連携し、共産システムを非難する。ソ連側は「反動」とか「危険な冒険主義者」というレッテルを張った。ソ連国民は自国の共産政權のマスコミには懐疑的だったという。ソ連側は非常に効果的にみえる。ロバガンダ機構を持っていた。ソ連の党や政府が掌握する、いわゆるマスコミだ。このマスコミは民にマルクス・レーニン主義の価値観を植えつけて絶大の効果を発揮すると西側のわれわれは思っていた。ところが民は、ソ連国民の中、そうしたプロバ...